

2023年度（令和5年度）事業報告

総括

2023年度（令和5年度）の事業

新規事業計画に基づく第3期3カ年計画の2年目として、2023年度（令和5年度）事業計画に沿って公益目的支出計画実施事業（継続事業）及びその他事業（実験動物飼育管理等事業、研究支援等事業、検査事業、普及啓発事業）を行った。

公益目的支出計画実施事業（継続事業）は2013年（平成25年）4月1日に事業を開始し2043年（令和25年）3月31日までの30年間で完了する見込みであるが、2023年度（令和5年度）はその11年目の事業を行った。その他の事業では2021年度に開始した貸室事業（研修室、実習用実験室の貸し出し）を行った。

1. 公益目的支出計画実施事業（継続事業）（定款の第4条第1項第3号業務）

1-1 霊長類関係の研究者及び技術者を対象にした研究助成事業

2020年度（令和2年度）に旧研究助成規程を改訂して創設した「NHP-A (Nonhuman Primates-Associates) 研究助成」に基づき、研究助成候補の公募・選考委員会による選考助成を行った。

第4回（2023年度）NHP-A 研究助成 応募件数：5件

表1 採択課題

	採択課題	研究責任者
1	非ヒト霊長類（NHP）における尿中オキシトシン測定系開発と生物学的バリデーション	橋本 千絵（京都大学・野生動物研究センター）
2	カニクイザル結核モデルを用いた結核菌バイオフィルムの機能解析	鳥越 祥太（国立感染症研究所ハンセン病研究センター）

選考委員：寺尾恵治（委員長）、片貝祐子、鯉江洋、清水慶子、藤本浩二、八神健一

表2 近年の受賞件数

	2,020年度 令和2年度	2021年度 令和3年度	2022年度 令和4年度	2023年度 令和5年度
応募件数	5	11	6	5
受賞件数	2	2	2	2

1-2 技術者の育成及び知識の普及

予防衛生を中心とする公衆衛生の向上と科学技術の発展に寄与することを目的として、次の事業を行った。

- ① 予防衛生協会技術講習会の開催：実験動物技術者資格認定を目指す霊長類関係の技術者等を対象に、モデルザル「リアル1号」を使用して、カニクイザルの保定方法・採血方法・経口投与方法・骨髄液採取方法等の技術講習会を以下のように実施した。

表3 技術講習会

開催日	コース	受講者
2023年9月9日(土)	基礎	4

開催場所は予防衛生協会本部（つくば市）

- ② 「第27回予防衛生協会セミナー」を、霊長類関係の飼育管理業務や各種研究に従事する技術者及び研究者等を対象に開催した。
- ア) 日 時 2023年(令和5年)12月2日(土)
- イ) 場 所 予防衛生協会（フルウェブ方式）
- ウ) テーマ 動物技術者教育の現状と展望
- エ) 参加者 84名

2. その他事業（定款の第4条第1項第1, 2, 4号業務）

2-1 国立研究機関の実験動物飼育管理業務及び研究支援業務

2-2 民間企業の研究支援業務

2-3 労働者派遣事業（動物飼育管理、研究支援、研究補助）

2-4 検査事業

医科学研究等に使用するサル及び従事するヒトの安全を確保するため、前年度から継続して以下の事業を実施した。

- ① 国内外のサル飼育施設から依頼を受けたサル等由来材料についてウイルス抗体検査や細菌検査等を実施した。2023年度（令和5年度）は、前年度より22,124件減少した。

表4 検査件数変遷

	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)
検査受託件数	15,027	33,730	11,606
(対前年度増減数)	(535)	(18,703)	(-22,124)

2-5 技術者の育成及び知識の普及

大学・研究機関・関連団体等に、獣医師や技術者を派遣し研修の実施や飼育技術者資格認定試験等への協力等を通じて技術者の育成及び知識の普及を行った。

① 公益社団法人日本実験動物協会への協力

(1) サル類実技研修会

② 特定非営利活動法人バイオメディカルサイエンス研究会への協力

- (1) バイオセーフティ技術講習会 (病原体等安全管理技術者養成講座)
- ③ 大学共同利用機関法人自然科学研究機構生理学研究所への協力
 - (1) 「ニホンザル」バイオリソース母群検討委員会
- ④ 量子科学技術研究開発機構への協力
 - (1) 動物実験委員会
- ⑤ 霊長類関係の研究者や繁殖育成等業務に携わる技術者からの技術的事項に関するメール等の問い合わせへの対応
- ⑥ 実験動物高度技術者養成講習会 (サル類)

2-6 ホームページの運営

- ① 当協会の組織及び業務を紹介
- ② 当協会の山内一也会員が解説する生命科学の雑記帳を公開し霊長類の研究者及び繁殖育成等に携わる技術者向けに情報を提供
(本欄は医学系大学の教材として広く活用された)

2-7 研究成果の発表

医科学研究用霊長類に係る研究を積極的に進め、その成果を学術誌等において発表した。

【誌面】

関根康司、五野上誠、久枝啓一、畑 明寿、藤谷登、谷あすか、桐谷光夫、鈴木幸一、細井英司、内山 (竹村) 伊代、内山淳平、渡辺俊平、宮井紗弥香、岡崎登志夫、後藤一雄、荒木千章、有坂麻子、金木信敏、吉田 隆、濱野正敬、大藤圭子、西口慶一、渭原 博、畠 岳也、清水園枝、原 瑞姫、古本佳代、中内暁博、熊澤武志、佐藤瑛美、松本 崇、西河 淳、亀島政範、小野文子 動物臨床検査における総合的精度保証 ワンヘルスサイエンス 6(1), 1-30, October 17, 2023

Efficient gene transduction in pigs and macaques with the engineered AAV vector AAV.GT5 for hemophilia B gene therapy.

Kashiwakura Y, Endo K, Ugajin A, Kikuchi T, Hishikawa S, Nakamura H, **Katakai Y**, Baatartsogt N, Hiramoto T, Hayakawa M, Kamoshita N, Yamazaki S, Kume A, Mori H, Sata N, Sakata Y, Muramatsu SI, Ohmori T. *Mol Ther Methods Clin Dev.* 2023 Aug 22;30:502-514. doi: 10.1016/j.omtm.2023.08.016. eCollection 2023 Sep 14.

Cynomolgus macaque model of neuronal ceroid lipofuscinosis type 2 disease.

Munesue Y, Ageyama N, Kimura N, Takahashi I, Nakayama S, Okabayashi S, Katakai Y, Koie H, Yagami KI, Ishii K, Tamaoka A, Yasutomi Y, Shimosawa N. *Exp Neurol.* 2023 May;363:114381. doi: 10.1016/j.expneurol.2023.114381. Epub 2023 Mar 12. PMID: 36918063

Generation of a familial hypercholesterolemia model in non-human primate.

Sato A, Tsukiyama T, Komeno M, Iwatani C, Tsuchiya H, Kawamoto I, Murase M, Nakagawa T, **Itagaki I**, Seita Y, Matsumoto S, Nakaya M, Shimizu A, Yamada A, Ema M, Ogita H. *Sci Rep.* 2023 Sep 20;13(1):15649. doi: 10.1038/s41598-023-42763-1.